



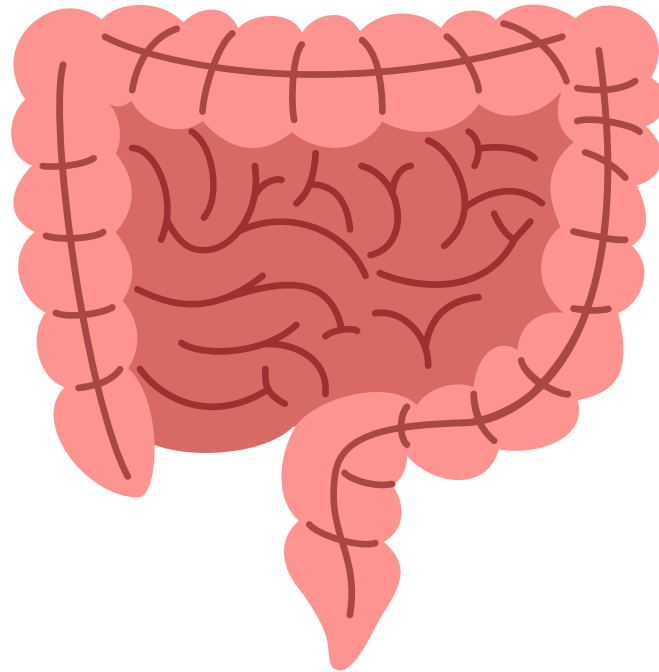
GUT HEALTH

MASTER CLASS



**WELCOME TO
WEEK10**





WEEK10

知識講座

③世界の農薬使用状況から見る日本の状況 ～日本の農薬現状と世界の流れ～

農薬に関する現在の日本と世界の使用量

1ヘクタールあたりの農薬使用量

Pesticide use per hectare of cropland, 2022

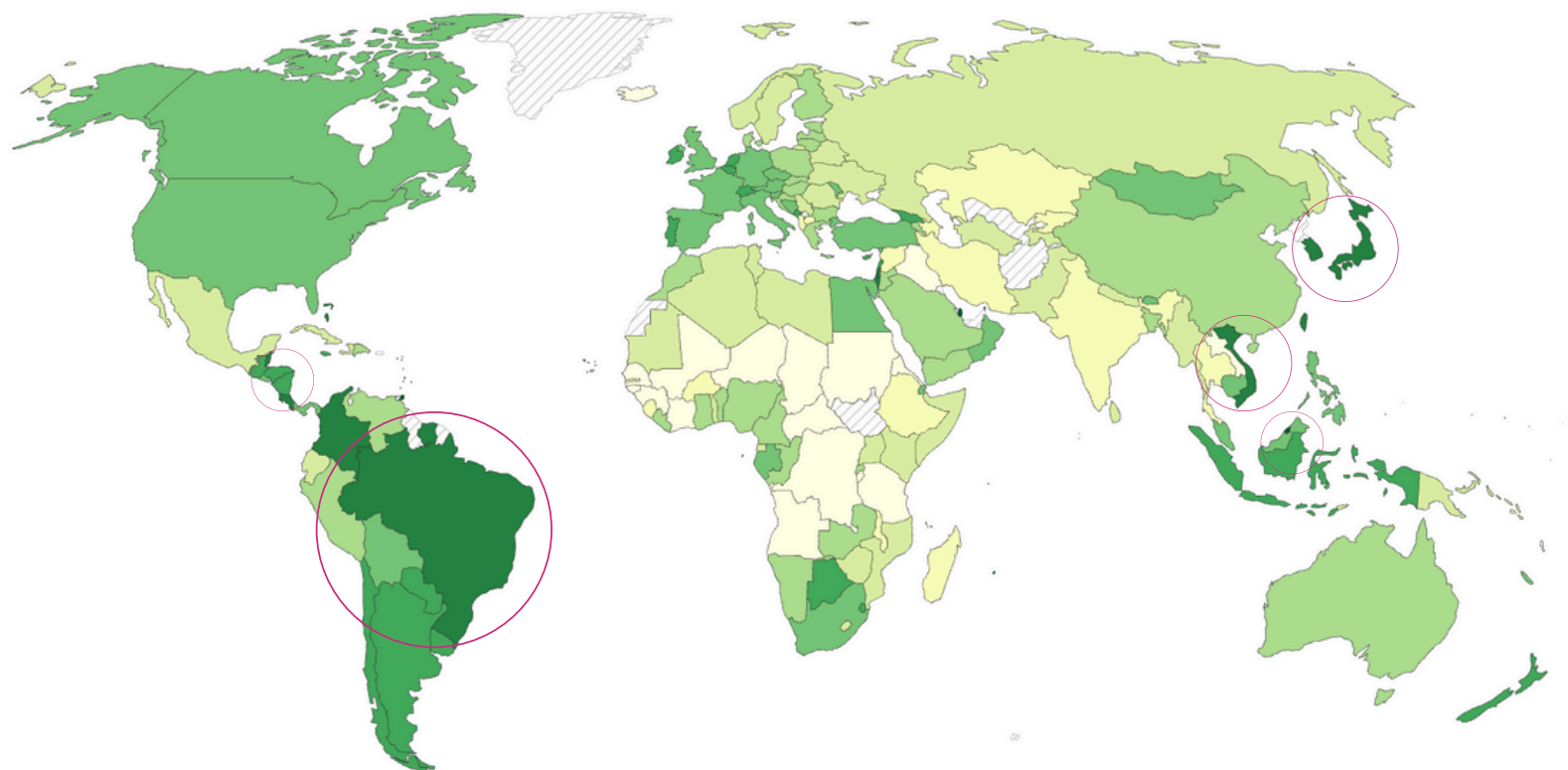
Average pesticide application per unit of cropland, measured in kilograms per hectare.

Our World
in Data

Data source: Food and Agriculture Organization of the United Nations (2024)

OurWorldinData.org/pesticides | CC BY

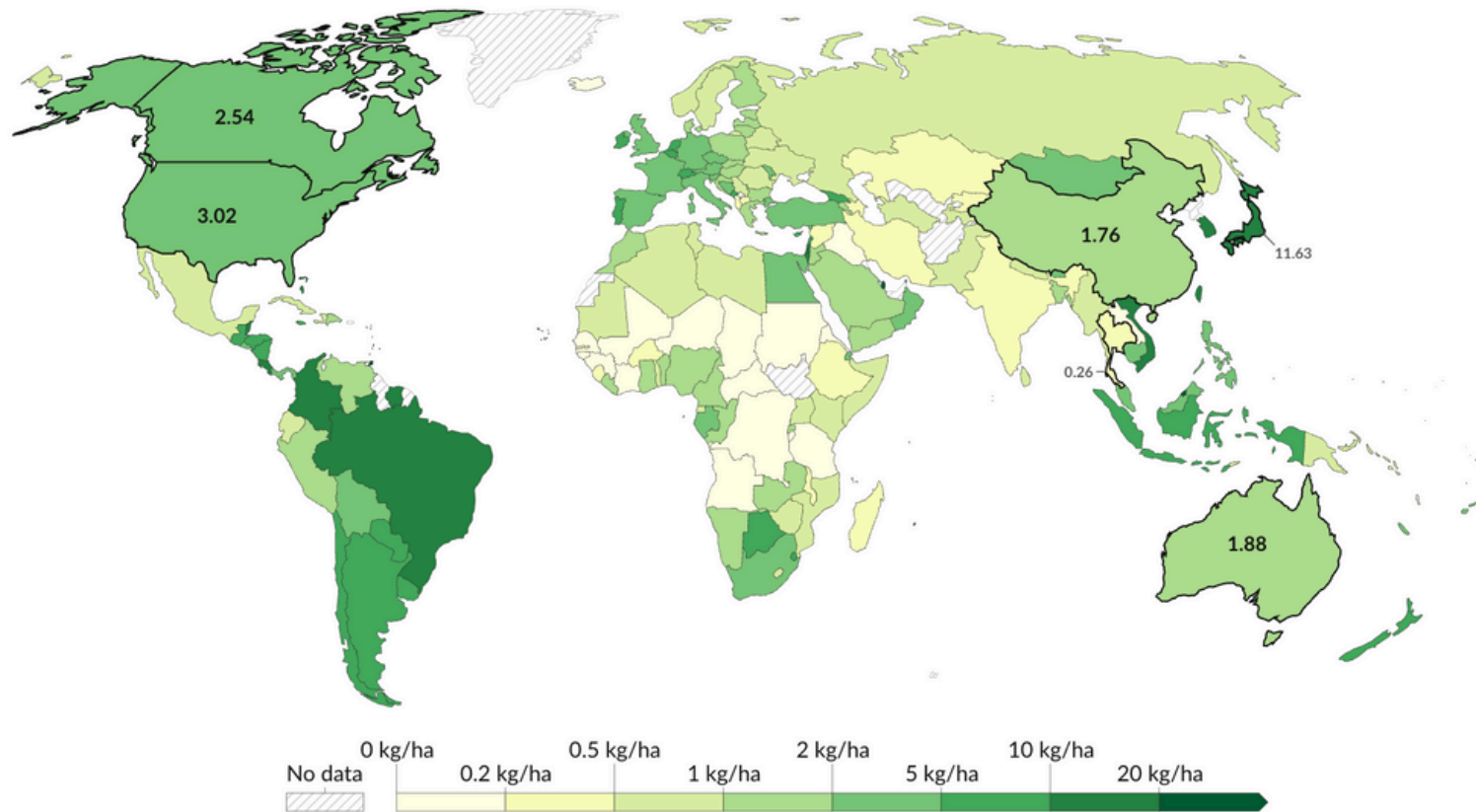
Table Map Line Bar



韓国：13.01kg
日本：11.6kg
ドイツ：4.06kg
アメリカ：3.02kg
中国：1.76kg
*中国産は怖い、は本当？

輸入品について考える

輸入量



輸入額トップ5 (2024)

1位：米国 3.02kg

*アメリカ国内消費の農作物も対象。日本に輸入されているGMO製品には数倍もの農薬が使用されていることが推測できる

2位：中国 1.76kg

3位：タイ 0.26kg

4位：オーストラリア 1.88kg

5位：カナダ 2.54kg

参考文献: JETRO 2024年農林水産物・食品の輸入実績

Required Report: Required - Public Distribution

Date: December 03, 2024

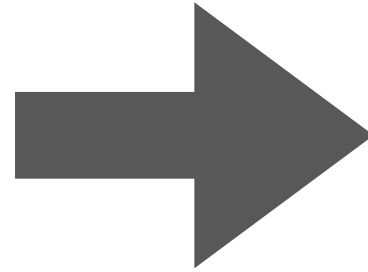
Report Number: JA2024-0055

Report Name: Agricultural Biotechnology Annual

Country: Japan

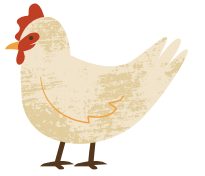
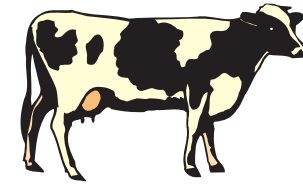
Post: Tokyo

Report Category: Biotechnology and Other New Production Technologies



Executive Summary

- ① Japan is a major importer of food and feed produced using modern biotechnologies. The United States is the top exporter of genetically engineered (GE) products, primarily grains and oilseeds, to Japan, but other major suppliers include Canada, Brazil, and Argentina. In Marketing Year (MY) 2022/2023, Japan imported 15 million metric tons of corn, 3.3 million tons of soybeans, and 2 million tons of canola.
- ② Japan also imports billions of dollars of processed foods that contain GE-derived oils, sugars, yeasts, enzymes, and additives. Conversely, Japanese farmers do not cultivate any genetically engineered food



- ① 日本は、現代のGMO技術を用いて生産された食品および飼料の主要な輸入国です。アメリカ合衆国は、日本に対して遺伝子組換え（GE）作物を輸出する最大の供給国であり、その主な輸出品は穀物と油料種子です。

日本の食用米生産量：
661万トン

- ② 日本は2022年から2023年の1年間で1500万トンのGMOトウモロコシ、330万トンの大豆、200万トンの菜種（キャノーラ）を輸入しています。また、遺伝子組み換え由来の油、糖分、酵母、酵素、添加物を含む加工食品も数十億ドル規模（1億ドル=約）150億で輸入しています。



* 輸入GMO作物使用の可能性のある製品タイプ/原材料記載
見分け方、代替の選択については今週のテキストを確認してください。

農薬に関する現在の日本と世界の使用量

日本で使われている代表格①

ここで知っておきたいキーワード：**グリホサートとは？**

1970年代にアメリカで開発された世界中で最も使われている除草剤の主成分。

2017年のWHOによる発がん性の疑いが周知されたことがきっかけで様々な人体や環境への悪影響が明らかになり
世界で使用が懸念されている成分。

世界ではどんな動きがあるの？

農薬に関する現在の日本と世界の使用量

世界の動向度逆行する規制

議論されるどころか品目によって
基準値を緩和

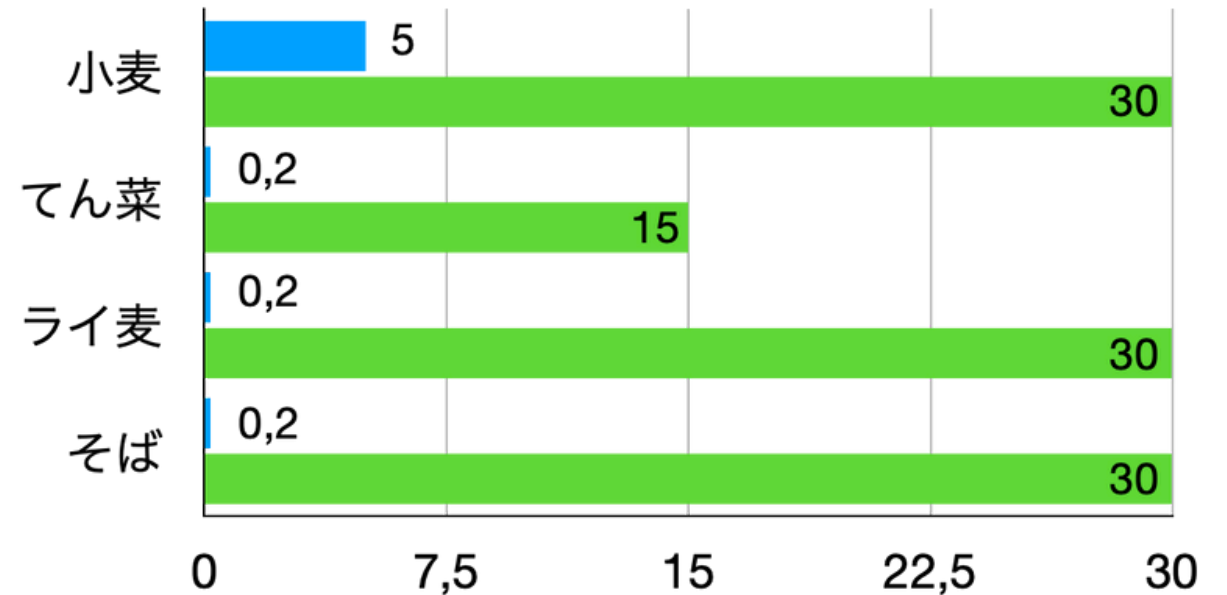
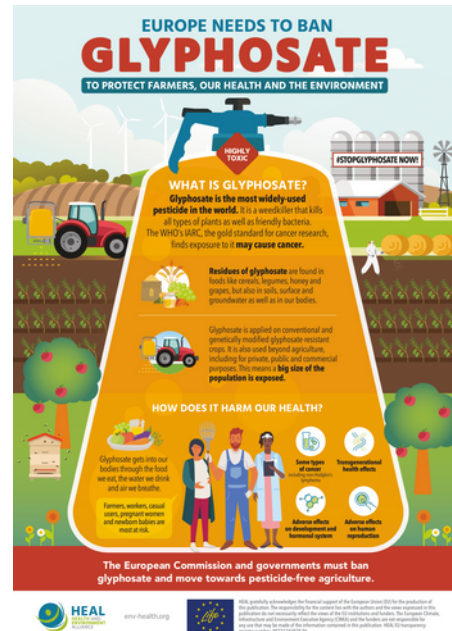
**EU：2023年末を目処に使用禁止を
検討中。**

(様々な研究結果、そして修正などを経て、議論が続いている。
法案から実施までに長期期間を要しており採択されるかは未定。)

**日本：グリホサート残留基準値を
緩和**

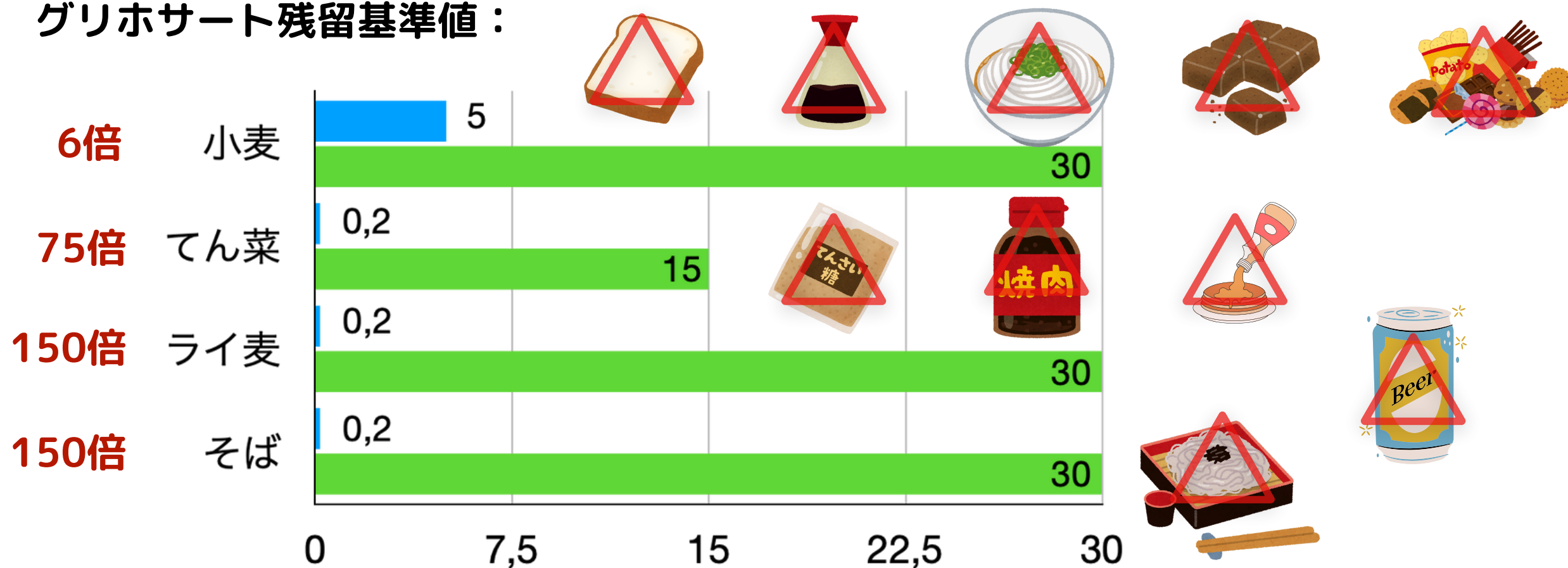
(基準を厳しくした食品もありますが、ここでは緩和した食品のみ紹介します。)

2002年から使用禁止について議論が
始まり議論され続けてきたが、
昨年末の the European Food Safety
Authority (EFSA) と the European
Chemicals Agency (ECHA)によって
グリホサートが完全に禁止されるべきと
結論づけるために十分な研究や法的正当
性がないとされ使用容認継続となった。
議論は引き続き継続中。



“国産”は安全？

グリホサート残留基準値：



5倍 とうもろこし ← 輸入も多い。輸入物は多くが食品添加物や家畜の飼料に使われる

農薬に関する現在の日本と世界の動向

日本で使われている代表格②

ここで知っておきたいキーワード：**ネオニコチノイド**

世界の動向度逆行する規制

EU：
12種類中10種類が使用禁止

2013年からミツバチを引きつけやすい作物に限って薬剤の使用を暫定的に禁止、
2018年にはネオニコチノイド系の農薬のうち、クロチアニジンとイミダクロプリド、
チアメトキサムを主成分とするものについてはすべての作物への使用を禁止

日本：
12種類中6種類が規制緩和
EUでは未承認の種類も新規登録

EUでは1 kgあたり0.01 mgが基準値として設定されていますが、
日本では25 mgとなっており、2500倍もの量の使用が認められている。

農薬に関する現在の日本と世界の動向

2023年3月7日に36か月の経過措置期間を経て、2026年3月7日から改正後のMRLsが輸入農産品にも適用される予定

MRLs = 残留農薬

(参考) EU向け主な輸出農産品の改正後のMRLs

農林水産省HPから抜粋

クロチアニジン・チアメトキサム = ネオニコチノイド系農薬

品目名	農薬	日本 (ppm=mg/kg)	EU	
			現行	改正後
茶	クロチアニジン	50 ppm	0.7 mg/kg	0.05 mg/kg
	チアメトキサム	20 ppm	20 mg/kg	0.05 mg/kg
米	クロチアニジン	1 ppm	0.5 mg/kg	0.01 mg/kg
	チアメトキサム	0.3 ppm	0.01 mg/kg	0.01 mg/kg
かんきつ類*	クロチアニジン	2 ppm*	0.06 mg/kg	0.01 mg/kg
	チアメトキサム	1 ppm*	0.15 mg/kg	0.01 mg/kg

(*みかんは、クロチアニジン 1 ppm、チアメトキサム 0.3 ppm)

米国環境保護庁EPAは、天然資源保護協議会(Natural Resources Defense Council、NRDC)が提出した、ネオニコチノイド系農薬であるアセタミプリド、クロチアニジン、ジノテフラン、イミダクロプリド及びチアメトキサムの全ての残留基準値を取り消すよう求める

農薬はどうやって入ってくる？影響は？

食べ物

- 農作物に直接散布
- 農薬が使用された飼料を食べた家畜

空気

- 散布されるときに空気中に漂ってしまう

飲み水

- 農薬が散布された土壌から地下水へ

肌への塗布

- 農薬が使用されたハーブなどの原材料を使用したコスメの使用

**農薬に常に曝露する農家、その近隣住民、
妊娠中の女性また、胎児、乳幼児への影響がもっとも影響を受けやすい。**



GUT HEALTH

MASTER CLASS



WEEK10



知識講座④へ

